

## 2023年度

|                    |   |
|--------------------|---|
| 科目名称               | 応用整復学   |
| 授業コード              | BH316   |
| 英語名称               | Applied reposition by Judo 2  |
| 学期                 | 2023年度前期  |
| 単位                 | 1.0   |
| 担当教員               | 佐藤 光浩 (医療科学部)   |
| 記入不要<br>ナンバリングコード  |   |
| 授業の概要              | <p>本講義では、柔道整復学上肢各論（肘関節部・前腕部）について学ぶ。これまで学んできた柔道整復学上肢（肘関節部・前腕部）の各論を振り返る。また、さらに詳細に深く教授する。</p> <p>柔道整復師の扱う外傷には、直接いのちに係わる症例は少ないが、時として、誤った判断によってその後の患者の日常生活を脅かすことがある。例えば、初期判断の誤りや外傷後の不十分な施術により機能障害が残存すればADLに問題を残す。</p> <p>柔道整復師として、これらの点を常に念頭に置き施術するためにも、身体的作用、生理的作用、外傷、一般臨床医学、鑑別診断、整復法、固定法、後療法等に対する知識を高めなければならない。</p> <p>また、実践に学んだことを臨床現場で活かすことができないといけない。</p> <p>本講義においては、上肢の骨・筋の作用、支配神経の確認、上肢（肘関節部・前腕部）の骨折、脱臼、筋腱軟部組織損傷についての症状、評価法、検査法、鑑別診断、整復法、固定法、後療法等について講義する。</p> |
| 科目に関連する実務経験と授業への活用 | 整形外科（物理療法室主任）や接骨院（院長）での25年に及ぶ臨床経験から、実践的かつ理論的に外傷に対する症状、鑑別診断、検査法、評価法、整復法、固定法について教授する。   |
| 到達目標               | <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している」ことを実現するために、本科目ではカリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」ことを目的とする。</p> <p>また、柔道整復学上肢各論（肘関節部・前腕部）についての知識を学ぶだけでなく、国家試験に対応できるよう、応用力を身に付けることを目標とする。</p> <p>また、柔道整復師として臨床の現場に出たときに、速やかに対応できるよう、臨床力の習得も目標となる。</p> <p>その他、社会人・医療人として必要な生命に対する畏敬の倫理、医療倫理観を身に付け、自己を磨く熱意や意欲を積極的に発揮できるような豊かな人間性の形成を目指す。</p> <p>また、協調性、自主性、倫理性を持ち、国民の健康の維持、促進、回復に貢献できる人材となることが目標となる。</p>   |
| 計画・内容              | <p>第1回 柔道整復学総論概要（手技・物理・運動療法・施術録・業務範囲を含む）<br/>（応用整復学 で学んだ知識の確認）<br/>予習：柔道整復学・理論編の総論を熟読すること。（90分）<br/>復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/>「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> <p>第2回 上肢の骨・筋の作用と支配神経（応用整復学 で学んだ知識の確認）<br/>予習：解剖学の教科書、骨・筋の項を輪読しておくこと。（90分）<br/>復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/>「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> <p>第3回 前腕近位端部骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等）<br/>予習：教科書の前腕骨近位端部骨折の項を輪読しておくこと。（90分）<br/>復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/>「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p>                  |

|           |  |
|-----------|--|
| 計画・内容     | <p>第4回 前腕骨骨幹部骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等）<br/> 予習：教科書の前腕骨骨幹部骨折の項を輪読しておくこと。（90分）<br/> 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/> 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> <p>第5回 前腕骨遠位端部骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等）<br/> 予習：教科書の前腕骨遠位端部骨折の項を輪読しておくこと。（90分）<br/> 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/> 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> <p>第6回 肘関節脱臼（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等）<br/> 予習：教科書の肘関節脱臼の項を輪読しておくこと。（90分）<br/> 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/> 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> <p>第7回 肘関節・前腕部の脱臼骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等）<br/> 予習：教科書の上腕骨遠位端部の項を輪読しておくこと。（90分）<br/> 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/> 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> <p>第8回 肘関節部の軟部組織損傷（発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等）<br/> 予習：教科書の肘関節部の軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分）<br/> 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/> 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> <p>第9回 肘関節部の軟部組織損傷（発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等）<br/> 予習：教科書の肘関節部の軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分）<br/> 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/> 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> <p>第10回 肘関節部の軟部組織損傷（発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等）<br/> 予習：教科書の肘関節部の軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分）<br/> 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/> 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> <p>第11回 前腕部の軟部組織損傷（発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等）<br/> 予習：教科書の前腕部の軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分）<br/> 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/> 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> <p>第12回 肘関節部・前腕部の骨折と脱臼まとめ<br/> （発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等）<br/> 予習：教科書の前腕部の軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分）<br/> 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/> 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> <p>第13回 肘関節部・前腕部の軟部組織損傷まとめ<br/> （発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等）<br/> 予習：教科書の肘関節部・前腕部の軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。<br/> （90分）<br/> 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/> 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> <p>第14回 試験<br/> 予習：前回までの授業ノートを見直しておくこと。（90分）<br/> 復習：今回の試験内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/> 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> <p>第15回 試験の解答解説と総まとめ<br/> 予習：前期の授業ノートを見直しておくこと。（90分）<br/> 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）<br/> 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」</p> |
| 授業の進め方    | 柔道整復学・理論編を用い、<br>パワーポイント、板書等により授業を進める。   |
| 能動的な学びの実施 | 学生への質問も活発に行う。<br>積極的な授業態度が期待される。   |
| 授業時間外の学修  | 各回、授業前学習として教科書の該当箇所を<br>読み込み、輪読しておくこと。疑問点はノートにまとめておくこと。（90分）<br>復習は、授業で行った内容をまとめること。（90分）<br>授業時間外学習として、予習（90分）、復習（90分）を<br>各回（15回）行うこと。<br>（1回3時間を15回で計45時間程）<br>理解の届かないところに関してはノートにまとめ、  |

## 2023年度

|                                    |  |
|------------------------------------|--|
| 授業時間外の学修                           | <p>次回の授業前に質問すること。この質問事項と説明は授業内に受講者全員にフィードバックする。<br/>         なお、質問は学内メールでも随時受け付ける。</p>   |
| 教科書・参考書                            | <p>使用する教科書<br/>         柔道整復学・理論編（南江堂）<br/>         参考書（資料作成の際、参考になっているもの）<br/>         今日の整形外科治療指針（医学書院）<br/>         標準整形外科学（医学書院）<br/>         整形外科クルズス（南江堂）<br/>         図説骨折・脱臼の管理1・2（廣川書店）<br/>         神中整形外科学上巻・下巻（南山堂）<br/>         クリニカル・レクチャー 柔道整復 実践技術（メジカルビュー社）</p>   |
| 成績評価方法と基準                          | <p>評価は、期末試験（100%）による。<br/>         期末試験は正答率60%以上を合格とする。<br/>         期末試験の受験資格は、出席条件をクリアしている者とする（全15回のうち2/3以上の授業出席者）。</p>  |
| 課題等に対するフィードバック                     | <p>リアクションペーパーは、次回授業開始時にフィードバックを行う。<br/>         学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。</p>  |
| オフィスアワー                            | <p>CampusSquareを参照</p>   |
| 留意事項                               | <p>私語を慎み、他の学生の迷惑にならないよう授業に臨むこと。<br/>         シラバスを確認し、予習・復習を行うこと。</p>  |
| 非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」 | <p>非対面授業となった場合の「授業の進め方」<br/>         課題提出型授業とzoomによるオンライン授業の併用。<br/>         成績評価方法<br/>         期末試験結果をもって成績評価を行う。<br/>         出席要件のクリア後、期末試験を行う。<br/>         期末試験は、大学のキャンパススクエアの課題提出項目を使用する。<br/>         決められた時間内に試験問題を解き、<br/>         決められた時間内に解答を提出する。<br/>         正答率60%以上を合格とする。<br/>         * 純粋な試験時間は60分。<br/>         パソコン操作時間（ダウンロード、提出操作等）を考慮し、10分プラスするため、<br/>         実際の試験時間は70分とする。</p> |